

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 年 月 日

事業所名 障がい児通所支援事業所おくえつザウルス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境 ・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			ホール内をパーティションで区切り個室等も作り対応している。	
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○				
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			目標設定、計画を行い、実施し反省振り返りをして日々の支援や活動につなげている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者向け評価表を活用し、保護者の意向等を把握し、業務改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				令和4年2月1日HPにて公表
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		来年度以降外部評価を行い業務改善につなげていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			事業所での研修や外部の研修に参加し資質や専門性を高める機会を確保している。	
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			日々の行動観察や、保護者からの聞き取りからニーズ等を設定し計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		標準化されたアセスメントツールは使用していないが、日々の行動観察や様々なツールを活用しながら状況の把握に努めている。	今後必要に応じて研修へ行き、標準化されたアセスメントが行えるようにしていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			複数の分野の活動や、年齢や興味関心に合わせた活動を提供している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			平日は余暇や運動中心、長期休暇等は様々な活動等での社会性やライフスキル等を設定して支援、活動を組み立てている。	

14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		一人ひとりの思いや特性、ニーズに応じて過ごし方や活動を組み立てサービス計画を作成している。	
----	---	---	--	---	--

適切な支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		翌日の朝に打ち合わせ、振り返りを行っているが、必要に応じて支援終了後にも打ち合わせを行いその日あったケース等について話をしている。	職員の終了時間が異なるため翌日の朝に情報共有や振り返りを行っているが、必要に応じて支援終了後にも打ち合わせを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			自立支援や創作、余暇の提供などを組み合わせて支援や活動を行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			特別支援学校に併設しており、学校の情報や利用児の日々の様子を細かく連絡、共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			受け入れ開始時に合同で研修を開催し主治医にも参加してもらい連携と連絡体制を整えている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			事前に保育園への見学を行ったりし情報共有や相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			支援内容や具体的に使用していたツールなどの情報を提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			個別のケースで発達障がい者センターと連携しながら支援に取り組んでいる。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		利用児や保護者の方の意向を聞きながらニーズがあれば立案していきたい。
27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○					

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時等に口頭でその日の様子や最近気になる事等を伝えたり、ノート等活用しながら共通理解を図っている。		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			ケースに応じてペアトレを実施した。	今後も研修等に積極的に参加しペアレント・トレーニング等の支援の充実を目指していく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○					
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			日々の相談や、モニタリング時の相談等に対し、家でのかわり方や生活の組み立て等を一緒に考え支援している。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			例年保護者座談会を開催していたが、コロナもあり実施できていない。	今後座談会の開催も含め、別の形での保護者同士の連携を支援できるように考えていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				苦情対応マニュアルや第三者委員を設置し、苦情があった場合迅速且つ適切に対応できるようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				月1回活動紹介等を載せたお便りを発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	○				個人情報マニュアルを作成しそれに基づいて個人情報の取り扱いを行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○					
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		コロナの影響もあり今年度はそのような活動は実施できていない。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的に（年2回）避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待をテーマにした研修を年1回以上行っている。セルフチェックにも取り組んでいる。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			○		現在身体拘束を行うケースがないが、必要に応じて慎重に取り組んでいく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				